

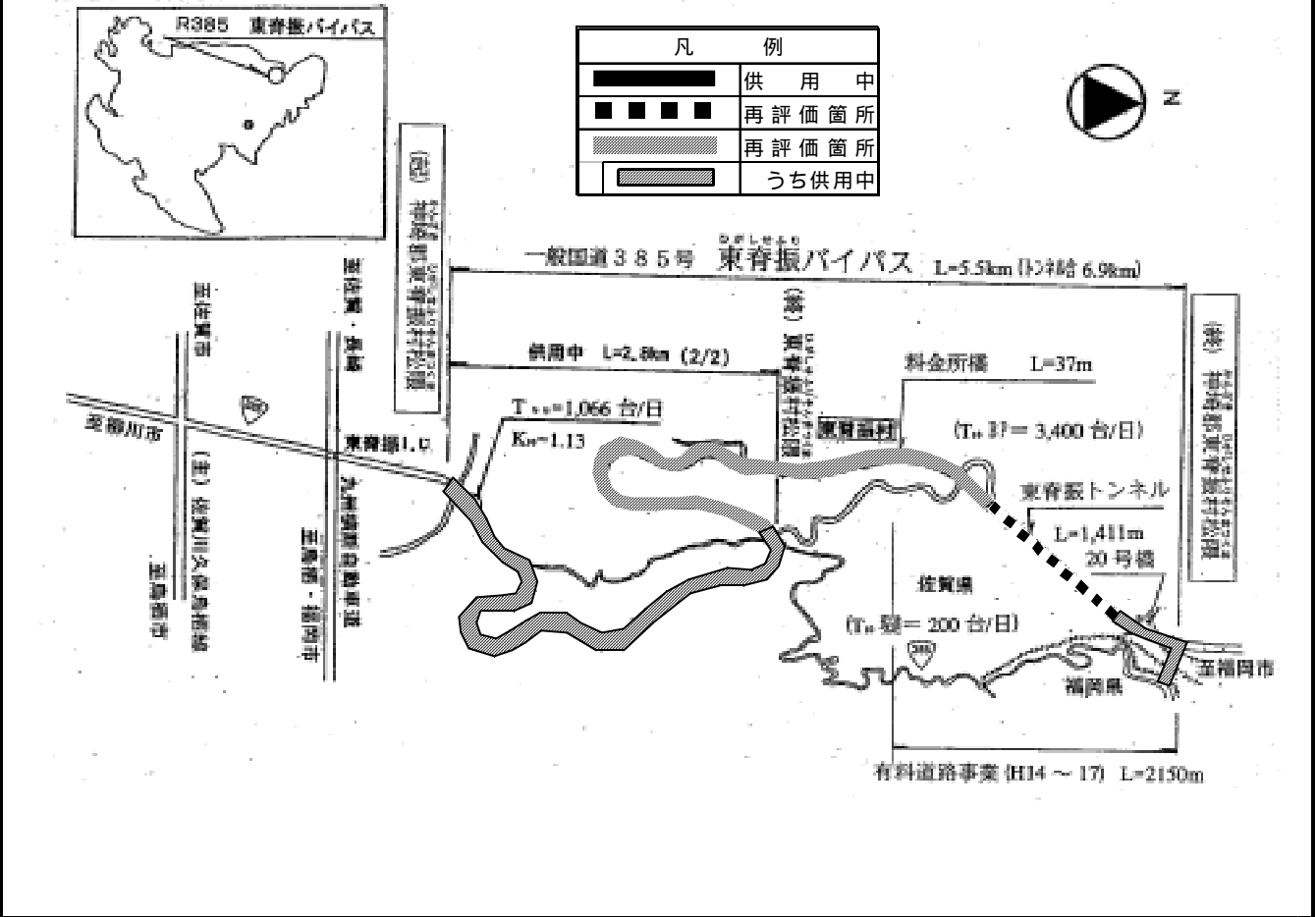
再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：中島威夫

事業名	一般国道385号東脊振バイパス <small>ひがしせふり</small>		事業区分	一般国道	事業主体	佐賀県
起終点	自：佐賀県神埼郡東脊振村松隈 <small>かんざき ひがしせふりむらまつくま</small> 至：佐賀県神埼郡東脊振村松隈 <small>かんざき ひがしせふりむらまつくま</small>			延長	5.5 km	
事業概要	一般国道385号は、福岡県柳川市を起点とし、佐賀県神埼郡三田川町、東脊振村を経て福岡県福岡市に至る延長約61kmの幹線道路である。東脊振バイパスは、一般国道385号の東脊振村と福岡県那珂川町との県境付近における異常気象時通行規制区間、及び隘路かつ線形不良区間の解消を図ることを目的とした、神埼郡東脊振村松隈地区内の延長約5.5km（トンネル含み延長 6.9km）の2車線道路である。					
S50年度事業化	年度都市計画決定 (S 年度変更)		S50年度用地着手	S50年度工事着手		
全体事業費	115億円	事業進捗率	92.6%	供用済延長	2.8km	
計画交通量	4,400台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 2.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 103/180億円 (事業費：98/175億円) (維持管理費：5/5億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 245/395億円 (走行時間短縮便益：218/349億円) (走行費用減少便益：18/38億円) (交通事故減少便益：9/8億円)	基準年 平成15年		
事業の効果等	・災害への備え（大型車、異常気象時の交通障害区間の解消が期待される） ・その他（佐賀、福岡の連携強化が見込まれる）					
関係する地方公共団体等の意見	他6項目に該当 一般国道385号は、沿線地域の振興、佐賀福岡両県の連携強化に重要な役割を果たすことが期待されており、福岡市をはじめとする関係4市8町1村の首長、議長等で構成される「大牟田神埼福岡線国道整備促進期成会」より早期整備の要望（平成15年7月）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	吉野ヶ里歴史公園の第1期開園（平成13年4月）により、そのアクセス道路としても早期整備に関する要望がさらに強くなっている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在までに約2.8kmの供用を行った。平成14年度から有料道路事業を投入し、残る2.7km（有料含み4.1km）の供用に向け事業推進中である。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業区間の一部において、推定岩盤線及び土質の変動により工事が難航し事業が遅延したが、現在では順調に事業進捗は図れている。平成14年度からは有料道路事業を投入し、一層の事業進捗を図っており、平成18年には事業完了は確実である。					
施設の構造や工法の変更等	推定土質の変動による切土法面工（アンカー工）等の追加を行った。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。